

平成 28 年度～29 年度の審議事項について（案）

【審議テーマ】

「精神障害者とその家族を支える支援のあり方について」

【概要】

＜精神障害者及びその家族を取り巻く状況＞

一般に、精神障害（精神疾患）は慢性疾患のひとつとされており、患者本人（以下、「本人」という）の社会生活に対しても長期間にわたって大きな影響を及ぼすといわれている。

本人の家族は、長期にわたる治療の支え手であることが期待されているが、精神障害に対する社会的な偏見などから、周囲の支援や手助けを得にくく、孤立した中で大きな負担を強いられることになりやすい。このような環境は、家族と本人との関係性を難しいものとすることもあり、場合によっては本人の病状悪化や再入院のリスクを高めてしまうことも少なくない。

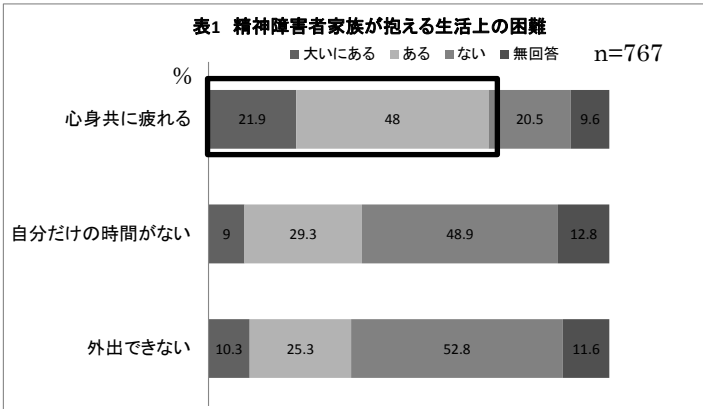
＜本市における精神障害者施策の取組み＞

本市では平成 8 年の精神保健福祉法の大都市特例施行以降、積極的に精神障害者施策の拡充に努め、日課資源や居住資源の拡大、就労支援や当事者活動の支援の充実を図ってきた。このような本人に対する支援を一層進めていくことと併せて、今後は家族の孤立や過度の負担を軽減するための施策の充実を図ることが必要である。

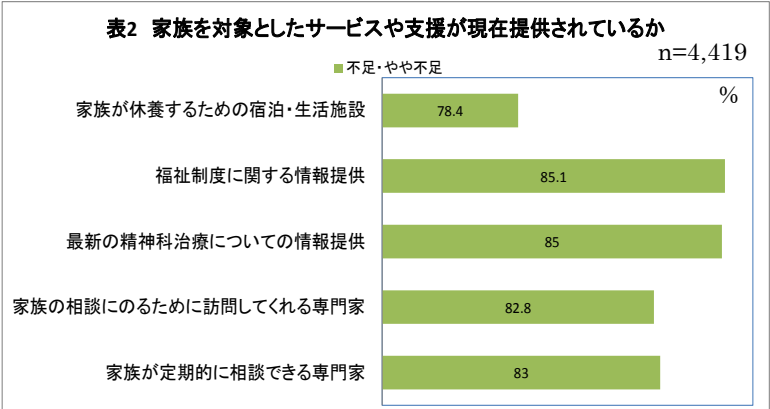
＜家族支援の現状及び課題＞

現状の家族支援プログラムとしては、例えば医療機関や区保健福祉センターで実施されている家族教育プログラム、病院や地域の家族会活動などが取り組まれている。しかし、これまでの家族を対象とした調査を概観すると、心身ともに疲れ、家族自身の生活上の困難さを抱えていること（表 1）、家族が相談できる場所や有用な情報の不足、家族の休養がとれない（表 2）といった課題や困難があることが指摘されている。これらのことから家族に対する支援については、一定の取組みがなされてきてはいるものの、必ずしも十分なものとはなっていない状況であると考えられる。

したがって、本市における家族支援の現状と課題を明らかにし、不足するものや今後取り組むべき施策やプログラムなどについて検討し、家族が自らの生活を充実しながら本人を無理なく支えていける支援のあり方を検討する必要がある。



【出典】精神障害者家族の生活上の困難に関する研究（大阪市立大学生生活科学部,1998）



【出典】精神障害者の自立した地域生活を推進し家族が安心して生活できるようにするための効果的な家族支援等の在り方に関する調査研究（特定非営利活動法人全国精神保健福祉会,2010）

【検討の進め方】

<現状把握>

精神障害のある本人を支える家族が、どのようなことに悩み、いかなる支援を求めているかについて、下記により把握する。

- ・先進地視察（先駆的な家族支援を行っている先進都市を予定）
- ・アンケート調査（家族の年代・本人の状態等による地域生活の課題の差異等を把握）
- ・聞き取り調査（アンケート結果を基に、家族に詳細な生活状況を聴取し、具体的な課題を把握）
など

<検討方法>

作業部会を設置し、概ね6回にわたり検討する。

◎作業部会の構成員（会長に諮り決定）

精神科医、精神障害者家族、精神障害当事者、精神科病院のP S W、障害者相談支援事業所職員
行政機関（保健福祉センター）職員 など

<検討の観点>

- ①家族同士の体験等の情報共有と支え合いの促進のありかた
- ②家族等の心身の疲労へのサポートのありかた
- ③本人及び家族の総合的な支援のコーディネートのありかた など

平成 28 年～29 年度精神保健福祉審議会のスケジュールについて（案）

	精神保健福祉審議会本会	精神保健福祉審議会作業部会
平成 28 年 6 月	平成 28 年度第 1 回開催 審議事項についての審議	
平成 28 年 8 月		作業部会① 検討方法、検討項目、検討 スケジュールについての 確認・決定
平成 28 年 11 月		作業部会② 先進地視察
平成 29 年 1 月		作業部会③ アンケート調査内容、先進 地視察のとりまとめ
		アンケート調査の実施
平成 29 年 3 月		作業部会④ 中間報告案の検討
平成 29 年 4 月	平成 29 年度第 1 回開催 作業部会による中間報告の審議	
平成 29 年 5 月		作業部会⑤ アンケート調査結果分析
平成 29 年 7 月		作業部会⑥ 最終報告案の検討
平成 29 年 9 月	平成 29 年度第 2 回開催 作業部会による最終報告の審議	